

ダイアップ坐剤の使い方

熱が出たときに使って、**熱性けいれんが起こるのを防ぐ**お薬です（成分：ジアゼパム）。けいれんをくり返す、長く続いたことがある、などの場合に、医師が必要と判断したお子さんにお出ししています。量は体重に合わせて決めています。

お子さんの量 1回 _____ mg （ _____ mg を _____ 個） 体重 _____ kg

処方日 _____ 年 _____ 月

1回目

37.5℃以上の熱に 気づいたら、すぐに1個

熱が上がりきる前に入れることが大切です。夜中でも、気づいた時点で入れてください。

2回目

8時間後、まだ38℃以上の 熱があれば、もう1個

使うのは、ふつうこの2回までです。それ以上は医師の指示がある場合だけにしてください。

入れ方

1. 手を洗い、坐薬を袋から出す
2. とがった方から、おしりの穴にまっすぐ入れる（先に水やベビーオイルを少しつけると入れやすい）
3. 入ったら、ティッシュなどでしばらくおしりを押さえる

出てきてしまったら

入れてすぐ（数分以内）に**形のまま出てきたら**、新しいものをもう1個入れてください。
しばらくたって、溶けかけて出てきたときは、追加せずに様子を見てください。

熱さましの坐薬と一緒に使うとき

① ダイアップ

30分以上あける →

② 熱さましの坐薬

ダイアップを先に入れ、**30分以上あけてから**熱さましの坐薬（アンヒバ、アルピニーなど）を入れます。同時に入れると、ダイアップが吸収されにくくなります。**飲み薬の熱さましなら、時間をあけずに使えます。**

使ったあとに気をつけること

- 眠くなったり、ふらついたりします。半日ほど続くことがあります。階段やお風呂、自転車などは大人がそばで見守ってください。興奮したり、機嫌が悪くなったりする子もいます。
- 使っていても、けいれんが起きることはあります。**5分以上続いたら救急車（119）**を呼んでください。
- 呼んでも起きない、息が苦しそう、顔色が悪いときは、すぐに受診してください。

その他の注意

- **けいれんの最中に、無理に入れないでください。**まずは安全を確保しましょう。おさまったあとに使うかどうかは、あらかじめ医師に確認しておいてください。
- 直射日光と高温をさけて室温で保管し、子どもの手の届かない所に置いてください。
- 体重が増えると必要な量が変わります。**前にもらった坐薬を使うときは、受診のときに量を確認してください。**
- 使う期間は、最後のけいれんから1～2年、または4～5歳ごろまでが目安です。やめる時期は医師と相談しましょう。

使った記録（受診のときにお見せください）

日付	1回目の時刻	体温	2回目の時刻	体温・様子
月 日	:	℃	:	
月 日	:	℃	:	
月 日	:	℃	:	
月 日	:	℃	:	
月 日	:	℃	:	

かつらがわキッズクリニック

075-874-4381

夜間・休日の相談は こども医療電話相談 #8000

〒601-8601 京都市南区久世高田町376-1 イオンモール京都桂川1階 メディモ内

監修：かつらがわキッズクリニック 院長 後藤高弘（2026年10月作成）／参考：日本小児神経学会「熱性けいれん（熱性発作）診療ガイドライン2023」



熱性けいれんの解説